

矢巾町業務継続計画

【新型コロナウイルス感染症対策編】

修正の概要

修正の趣旨

県通知「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えた業務継続に関する緊急点検（市町村第959号令和4年1月18日）」に基づき、「矢巾町業務継続計画（新型コロナウイルス感染症対策編）」を点検・確認した結果、新型コロナウイルス感染症に係る情勢の変化に応じた、国や県による感染症対策の新たな指標や施策の進展との適切な整合を図る必要性が認められたため、同計画を見直し修正を行なうもの。

令和4年3月18日



感染症対策の新たな指標の策定に伴う見直しの概要

従来のステージ分類の考え方

感染状況の4段階区分

| | | |
|-------|----------|------------------------------|
| ステージ1 | 感染ゼロ散發段階 | 感染者が散發的に発生 |
| ステージ2 | 感染漸増段階 | ・感染者が徐々に増加 ・医療提供体制への負荷が蓄積 |
| ステージ3 | 感染急増段階 | ・感染者数が急増 ・医療提供体制に支障 |
| ステージ4 | 感染爆発段階 | ・爆発的な感染拡大の継続 ・医療提供体制の機能不全 |

【～令和3年4月13日】

6つの指標

| 医療提供体制などの負荷 | | 監視体制 | 新規感染者数 | | 感染経路の不明割合 |
|-------------|---------------|---------|-----------------|--------------|------------|
| ①病床使用率 | ②10万人あたりの療養者数 | ③PCR陽性率 | ④10万人あたりの新規感染者数 | ⑤直近1週間と先週の比較 | ⑥感染経路の不明割合 |

【令和3年4月15日～】

5つの指標

| 医療提供体制などの負荷 | | 監視体制 | 新規感染者数 | | 感染経路の不明割合 |
|-------------|---------------|---------|-----------------|------------|-----------|
| ①医療のひっ迫具合 | ②10万人あたりの療養者数 | ③PCR陽性率 | ④10万人あたりの新規感染者数 | ⑤感染経路の不明割合 | |

ワクチン未接種時期における新規陽性者数と医療ひっ迫との関係の検証に基づき様々な指標の目安として設定

従来の具体的対応の考え方

対応の段階区分と共通的な基本的対応

| | | | |
|------|--------|--------------------------|--------|
| 前段階 | 未発生期 | 段階ごとに各所属に共通する基本的な対応事項を規定 | |
| 第1段階 | 海外発生期 | | |
| 第2段階 | 国内発生早期 | | 県内未発生期 |
| | 国内発生期 | | 県内発生期 |
| 第3段階 | 感染拡大期 | まん延期 | |
| | 回復期 | | |
| 第4段階 | 小康期 | | |

業務トリアージの区分

| 優先度 | 高 | 応急業務 | 感染拡大防止策、危機管理上必要な業務 |
|-------------|------|-------|--|
| ↑ ↓ 低 | 通常業務 | 継続 | 町民の生命・身体・財産の保護、生活維持、町の基盤維持、法令等の義務に係る業務 |
| | | 縮小・延期 | 縮小・延期が可能な業務及び町民との対面業務 |
| | | 休止 | 三密回避が困難かつ休止可能な業務、非緊急性業務 |

各段階に応じた優先度を踏まえ、業務の選別を実施

感染対策に係る新たな分類の考え方

【令和3年11月8日～】

感染対策のための5レベル区分

| | | |
|------|-------------|--|
| レベル0 | 感染者ゼロレベル | 新規陽性者数ゼロを維持できている |
| レベル1 | 維持すべきレベル | ・安定的に一般医療が確保 ・新型コロナに対し医療対応が可能 |
| レベル2 | 警戒を強化すべきレベル | 確保病床使用率が概ね20%を超えた状況 |
| レベル3 | 対策を強化するレベル | ・3週間後に必要とされる病床数が確保病床数に到達した場合 ・病床使用率や重症病床使用率が50%を超えた場合 |
| レベル4 | 避けたいレベル | 医療提供体制の機能不全 (一般医療制限後も感染症対応不可) |

【令和3年4月15日～】

5つの指標

| 医療提供体制などの負荷 | | 監視体制 | 新規感染者数 | | 感染経路の不明割合 |
|-------------|---------------|---------|-----------------|------------|-----------|
| ①医療のひっ迫具合 | ②10万人あたりの療養者数 | ③PCR陽性率 | ④10万人あたりの新規感染者数 | ⑤感染経路の不明割合 | |

医療ひっ迫が生じない水準に感染を抑え、日常生活の段階的な緩和や教育、日常生活、社会経済活動の回復を促進するために設定

新たな分類を踏まえた対応の考え方

レベル毎の基本的な取り組み(基準)

| | | |
|------|-------------|---|
| レベル0 | 感染者ゼロレベル | レベル段階ごとに、職員個人及び組織(対策本部事務局、施設管理者、各課等)が行う基本的な取り組みの基準を規定 |
| レベル1 | 維持すべきレベル | |
| レベル2 | 警戒を強化すべきレベル | |
| レベル3 | 対策を強化するレベル | |
| レベル4 | 避けたいレベル | |

業務トリアージの区分

| 優先度 | 高 | 応急業務 | 感染拡大防止策、危機管理上必要な業務 |
|-------------|------|-------|--|
| ↑ ↓ 低 | 通常業務 | 継続 | 町民の生命・身体・財産の保護、生活維持、町の基盤維持、法令等の義務に係る業務 |
| | | 縮小・延期 | 縮小・延期が可能な業務及び町民との対面業務 |
| | | 休止 | 三密回避が困難かつ休止可能な業務、非緊急性業務 |

各レベルに応じた優先度を踏まえ、業務の選別を見直し、修正